



No. 4

今回、私はJA（農協）女性部などの活動を通して『食を守る』ということについてリポートします。「うちは農家じゃないから関係ないわ」と言われるかたも多いと思います。しかし、大切な家族の食事を守るということは、家庭を守る主婦の皆さんにとって大切なことです。

この問題を、生産者側と消費者側とがお互いに考えることが大切だと思います。

なぜ今「食」なのか

なぜ、今、このことをリポートの題材に選んだのかといいますと私が農家の主婦であるというほかに、

①最近、私が参加しているJA大館婦人部が、比内、田代と合併

広報
市民リポーター
だより

食を守る

リポーター 小林 りつ子さん
(二井田・小坪川原)

して新しい「JAあきた北女性部」として生まれ変わり、新たな一歩を踏み出したこと。

② 昨年の十一月にスタートした新食糧法の下で、初めての収穫の秋を迎え「米」に対する関心が高くなってきていること。
③ 最近、環境とか教育とか様々な分野で、農業の持つ意味が見直されてきていること。
の三つが挙げられます。
今、農家の女性たちが一生懸命「食」の未来を探ろうとしている姿を、市民の、特に同じ女性の皆さんに伝えたかったからです。

大館はどうなの？

今、大館市の農家の数は三千四百七十二戸で、一五・七パーセントです。その中で、専業農家の数は三百八十三戸で、全農家戸数の一一・一パーセントです。

また、人口の面から見ると、市の人口は六万八千四百五十六人（八月現在）です。その中で、主として農業を行っているかたは四千九百八十二人で、七・二パーセント。そのうち女性は、二千六百八十一人（六一・七パーセント）です（人口以外は平成七年度の数字です）。

統計をみて気になるのは、平成二年と七年を比較して、農家の数も専業農家の数も一〇パーセント以上も減少していることと、二十代から五十代の各階層で二五パーセントから三〇パーセントも減少し、七十代が二五パーセント

JAあきた北女性部設立代議員総会



JA女性部って何

さて、八月二十九日、最後の大館女性部大会を開催し、わが女性部は九月五日に、比内、田代とともに中央公民館において設立総会

増えているということでした。

このことは、後継者不足と高齢化の現われであり、ますます女性に対する責任の度合いが増えてきたということがいえます。

を行い、正式に「JAあきた北女性部」として発足しました。部員数は、三千三百人、そのうち大館は一千九百八十七人です。みんな力を合わせて頑張ることを誓いました。

大館の活動として、自らの健康や地位向上のほかに、市民に向けての「みどりの市場」や「ふるさと宅急便」などの継続が挙げられます。特に、「みどりの市場」は皆さんに大変好評をいただいでい